

修 士 論 文 要 旨

看護学専攻	生涯看護学分野 成人看護学領域（急性）	学籍番号 218608 氏 名 宮浜 朋子
論文題目	ICU へ配置転換 1 か月の看護師が示す看護実践の困難感と背景との関連	
キーワード	ICU、配置転換、看護実践、困難感、看護師の背景	
<p>【はじめに】</p> <p>ICU へ配置転換 1 か月は、知識や看護技術が伴わないために「A ライン（観血的動脈圧測定法）」「点滴ルートの選択」「未経験疾患」「心電図」「人工呼吸器」「略語」「医療機器の取扱」といった頻出の看護実践に困難感を示すとされる。また看護師の蓄積された経験は新たな看護実践を学ぶ際の要因とも報告されている。しかし ICU での看護実践の困難感に影響する経験や背景は明らかではなく、ICU へ配置転換した看護師が 1 か月に示す看護実践に対する困難感と看護師の背景との関連を明らかにすることを本研究目的とした。</p> <p>【方法】</p> <p>特定集中治療管理料算定の ICU に初めて配置転換された看護師で配置転換後 6 か月以上～2 年以内の者に質問紙調査を行った。調査内容は「看護師の背景」と「配置転換 1 か月に困難感があつた看護実践」とし Pearson の χ^2 検定または Fisher の直接法を行った。有意水準は 5% 以下とし有意差が認められた項目に残差分析を行った。</p> <p>【結果】</p> <p>承諾が得られた 120 施設の対象者 499 人に質問紙を配布し 216 人（回答率 43.2%）から回答を得た。回答に欠損があつた 14 人を除き 202 人を分析対象とした。分析の結果、「A ライン」は臨床経験 1～5 年目、「点滴ルート選択」は配置転換経験 2 回以下、毎日自己学習した者に、「未経験疾患」は配置転換希望がない者に、「人工呼吸器」は配置転換経験 2 回以下の者に、「未経験疾患」「心電図」「人工呼吸器」は配置転換を受け入れられなかった者に、「点滴ルート選択」「心電図」「略語」は循環器系経験がない者にそれぞれ困難感が高かつた。</p> <p>【考察】</p> <p>「A ライン」について経験年数が短い者は A ラインが必要な重症患者の看護経験が少なく、重症度の違いを前部署との疾患の違いとして感じ、配置転換を受け入れられず困難感を高くしたと考えられた。「点滴ルート選択」について配置転換経験 2 回以下や循環器経験がない者は投与管理に注意を要する循環器作動薬の投与経験や知識が少なく、毎日自己学習しても追い付けず困難感を高くしたと推察された。「未経験疾患」について配置転換希望がない、配置転換を受け入れられない者はモチベーションが低く、循環器経験がない者は生命維持の看護への不安から困難感を高くしたと推察された。「心電図」について循環器経験のない者は心電図読解経験が少なく、「A ライン」同様に重症度を疾患の違いと感じ配置転換を受け入れられず困難感を高くしたと考えられた。「人工呼吸器」について配置転換経験回数との関連には別要因が考えられ、配置転換の受け入れができないのは「A ライン」「心電図」と同様に重症度を疾患の違いと感じ困難感を高くしたと推察された。「略語」について循環器経験がない者は循環器系略語の知識が乏しく困難感が高かつたと考えられた。</p> <p>【結論】</p> <p>「配置転換の受け入れ」は配置転換について納得できるような支援を、循環器経験のない者には知識の提示といった支援が必要と考えられた。</p>		